

# 平谷こども発達クリニックにおけるディスレクシアの取り組みの成果と見えてきた課題 (第28回日本LD学会 2019.11.10 平谷美智夫)

## 当クリニックの本学会でのDD関連自主シンポジウム

- 第23回 (2014) 発達障害に特化した民間こども発達クリニックのLDの取り組みと提言  
～早期発見とその後の“支え”を中心に～
- 第24回 (2015) 学習障害のある児童が見せる臨床症状の経年的移り変わり  
～発達クリニックの継続した支援を通してみる義務教育期間中の移り変わり～
- 第25回 (2016) 限局性学習症の“限局性”について考える  
～全般的な知的能力との関係との関係を中心に～
- 第26回 (2017) 限局性学習症の日常生活に目を向けて  
～教科学習以外で生じる困難と支援～
- 第27回 (2018) 平谷こども発達クリニックにおけるディスレクシアの取り組み  
～福井県特別支援教育センターとの連携～

平谷こども発達クリニックの18年間のDDの取り組みを振り返り今後の課題を整理した。今回は、まずDD児の幅広い臨床を紹介し、現在クリニックで行っているDD児童・生徒への支援（個別の言語療法・ICTを活用した支援機器グループ・DD児童を対象とする学習支援室・DDに高い頻度で併存する不登校への支援を紹介する。

# 第1回ディスレクシアセミナー in Fukui DDの臨床と支援

2018. 7. 29

(於: 福井県立大学)

①DDとは: 音韻の問題に焦点をあてて..(原恵子)

②DDとは350例の背景因子と支援 ..平谷

③一人の困ったをみんなの良かったに  
に変わる 教育とは(インクルージョン教育)

神山忠(岐阜市立鶉小学校)

④福井県特別支援教育センターのDD支援

・为国順治

⑤クリニックの取り組み: 読み書き評価

・支援器機G・学習支援室 クリニックST・竹内正宏

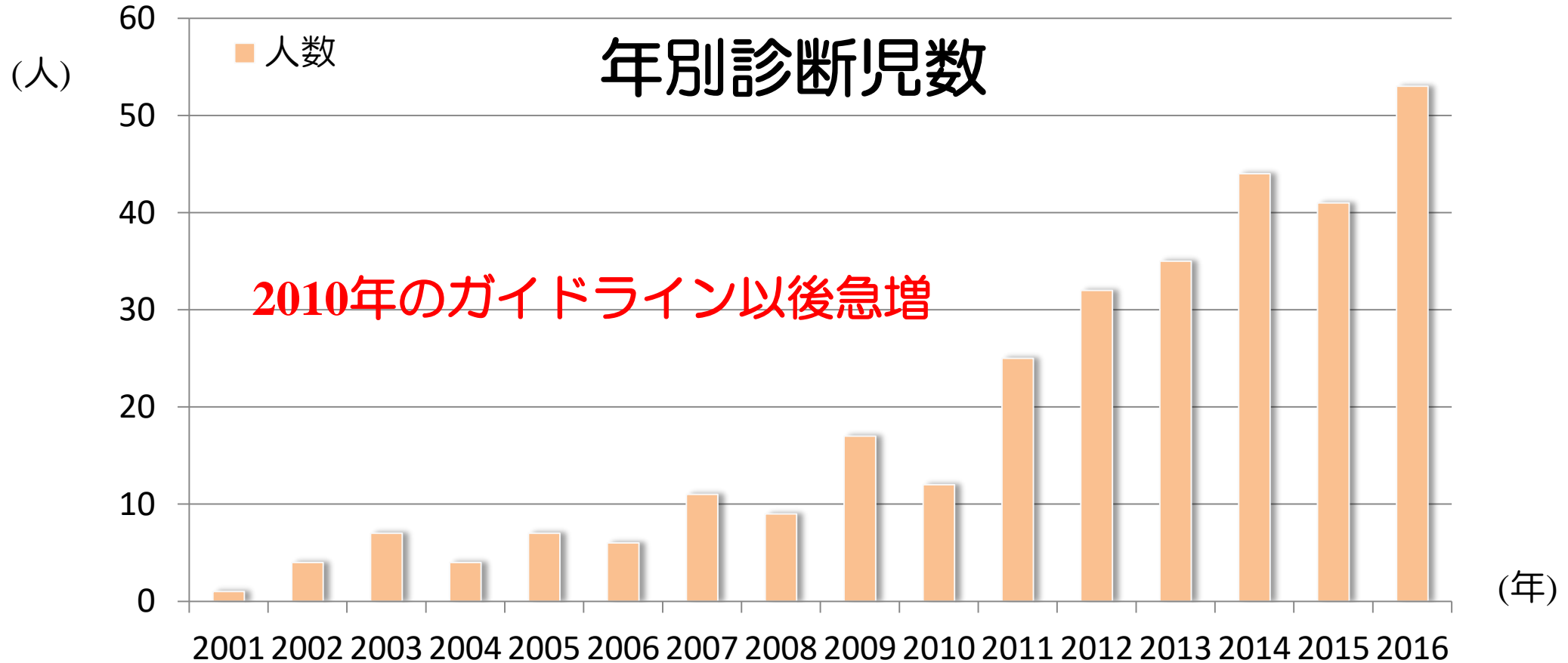
主催: 平谷こども発達クリニック・

後援: 日本LD学会・特別支援教育士資格認定協会



# ディスレクシア350例の背景因子の検討及び総合的な支援

平谷こども発達クリニック 平谷美智夫



ディスレクシアセミナー in Fukui 2018.7.29

# Dyslexia308例の背景因子

## 併存症

ADHD	244	計算障害	>51
ADDI(不注意型)	99	性別 男/女	258/50
ADDC(混合型)	112	コンサータ効果	
分類不明	32	投与者	154
PDD(広汎性発達障害)	183	有効	119
ADHD+PDD	158	2語文 30≤	45
ADHD単独	86	30>	179
PDD単独	25	不明	84
DD単独	44	LD Trauma (登校渋り・その他)	

平谷こども発達クリニック(2001~2017.3)

過去の症例が多いのでDSM-IVで表記

PDD:NOSを含む      ADHD:NOSも含む

# ADHD・ディスレクシア(読字障害)合併例2年生・コンサータが著効

主訴:①読み書きが苦手 ②集中力がない

話しことば:就学まで特に問題なし

読み書き:文字に興味なく、絵本の読み聞かせも最後まで聞くことは出来なかった。

平仮名は就学前には読めなかった。

清音の一部・拗音・促音は書き間違える

初見の文章の音読はたどたどしいが、

数回読むと覚えて読み誤りは少なくなる。

→朗読ができると担任勘違い=LDを見落とす

- 「は」と「わ」を書き間違える。
- 漢字は苦手。偏と旁が逆・線が足りない・多い・送り仮名の誤りなど。

例) 飲む→ 欠食 祭り→ 発

## 記入欄

(平成19年1月から従来のリタリンからコンサータに変わりました。同じ成分ですが、持続時間も長くなり下校時間まで有効です。また投与量など調整する必要があります。しばらくの間、観察をお願いします)

書字の変化に目を見張るものがあります・・・記憶の定着も上がってき・・・少しずつ書けるようになってきました

(しかし今では、漢字の練習を繰り返してし字がすま少なくなっています)

運動場で運動会の音楽が鳴っているのに授業の黒板をみていたことには驚きました22日

① コンサータ服用開始(8.31)1か月後(9.29)の担任報告:書字・対人関係・注意集中に著しい効果

## 診断書（進路判定会議に学校長あてに提出）

ディスレクシア+ADHDのSさんに特別な配慮をお願いします。2015.6.9 平谷美智夫

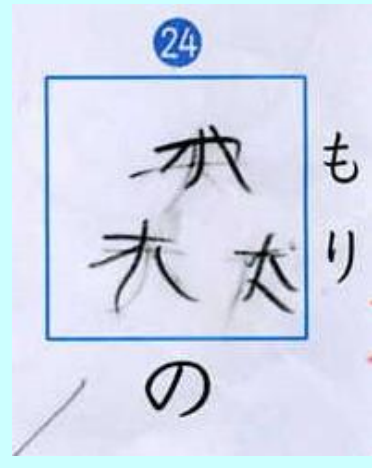
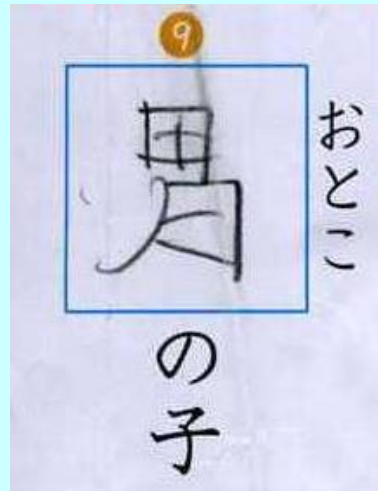
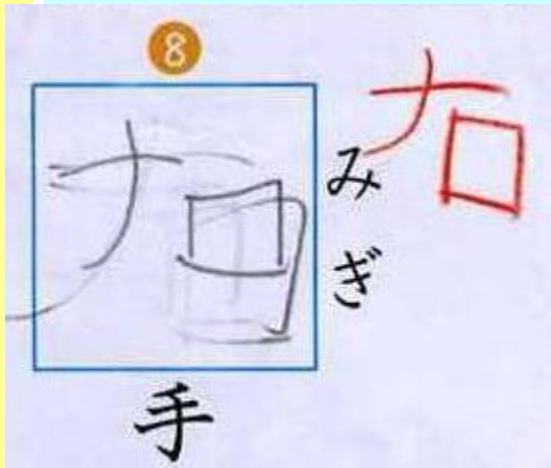
知的水準は高く、小学校では本人の努力、家族・担任・クリニックの支援で一定の成績も残せましたが、努力にも限界があります。また中学では【成績？】が下位に低迷し高校進学が難しい状況です。現在の【成績？】は彼女の教科理解を反映していません。DDの生徒の理解度を彼女の最も苦手な読み・書きで評価する方法が間違っていることは科学的に明らかです。クリニックで診断された250例近いDD児童の多くは理不尽な評価方法（試験のやり方）で潰されています。Sさんへのこれまでの支援は現在の日本では最高レベルであると自負しています。高校推薦を決定するにあたり、大学入試で認められた特別な配慮を彼女に認められるよう最大限の努力を払っていただきたく切にお願いします。これは基本的人権であると認識しています。

6月の判定会議で志望校推薦が決まったが、1月の学力検査の結果が悪く推薦困難となった。再度特別支援教育の趣旨に基づき推薦を依頼する診断書を2月に提出。2月9日正式に推薦決定。現在元気に高校に通学している。

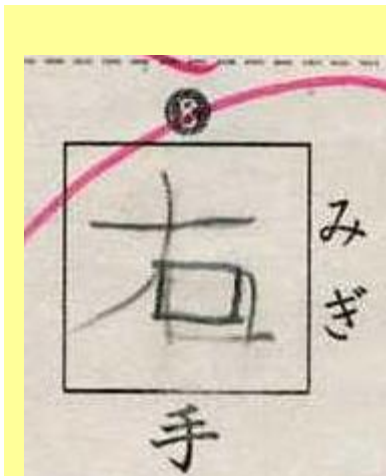
**本生徒にはDDの支援すべてが実施された：** ①読み書きの指導 ②併存症（ADHD）の治療 ③特別な配慮 ④代替機器使用 現在元気に高校に通学

# 書字がMPHにより改善した書字障害＋ADDC

おしり・よくがんばったよ。  
 とってもいいねいな字です。



MPH投与前



MPH投与後

DD: 読めず書けず    ASD: 読めるが書けない  
 ADHD: 字が汚い。MPH有効

# 発達障害児童にみられるDDの早期発見に関する研究

**第1報: ADHD・ASD・言葉の遅れなどで幼児期より療育を受け、就学後にディスレクシアと診断された児童の臨床的特徴の検討 (後方視的研究)**

**第2報: 年長時に読字リスク早期アセスメントを実施した発達障害児の小学1年生での読字能力調査 (前方視的研究)**

122回 日本小児科学会学術集会(2019.4.19～21: 於金沢)  
日本LD学会第2回研究集会(2019. 1. 13)で発表

(榊・山名・平谷・原・石坂・大石)



## 幼児期から療育に通い就学後DDと診断された例の併存 (N=43)

診断名	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
ADHD	12	28	79	53.3
ADHD+ASD	21	49	93	41.5
ASD	10	23	29	12.9
併存症なし (DD単独)	0	0	23	10.3
合計	43	100%	224	100%

クリニックでのDD  
診断総数(224例)

ディスレクシア単  
例は就学前には受  
診しない(ASDなどの  
併存がないと問題に  
気付かれない

幼児期より療育を受け、就学後にDDと診断される児童:山名寿美子(平谷クリニックST)平谷美智夫,  
第17回発達性ディスレクシア研究会(2017.7.1~2 於島根大学)

# 調査開始時(2017.10)の児童の背景と1年後(2018.8)の追跡調査結果

ADHD	14 (43)
ASD	19 (41)
ADHD+ASD	21
未診断	8
その他	15
ASD+α(DDなど)	3
ADHD+α(DDなど)	8
DD単独・DSD・言発など	

対象 77例      男女 67/10

IQ:100<	(19)	85~99	(30)
70~84	(15)	70>	( 5)

## 1年後追跡調査実施者

読字検査実施 40

検査実施不可 23 ⇒

追跡不可 14

(転勤その他) 合計77

追跡調査実施者 63

知的障害	11
DD疑い	2
場面緘黙	1
その他	9

読字に問題のあったケース: 38/63

読字検査実施して

流暢性低下 14

疑い 1

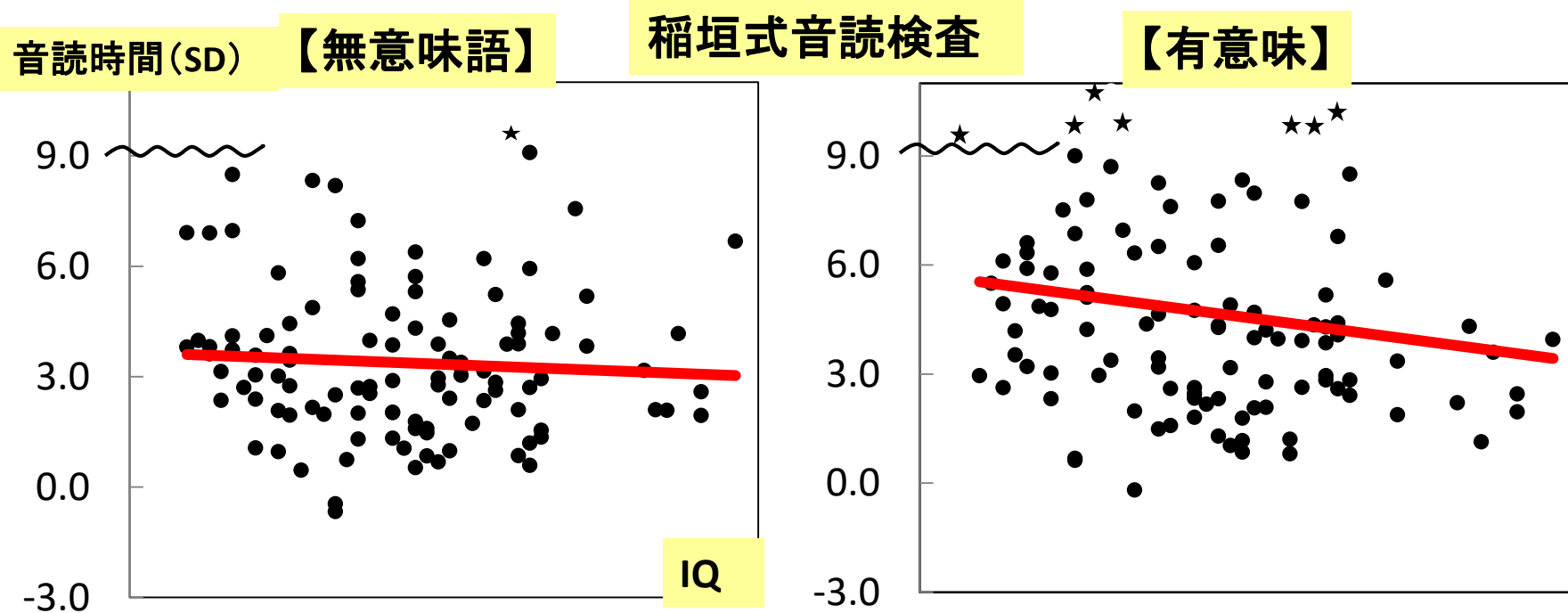
読みに困難あり  
読字検査実施  
できなかった者

**【結果】**79名の中でガイドライン検査が行えた児よりIQ<70のものを除くと39名の症例を得た。39名の診断は、注意欠如多動症(attention deficit hyper activity disorders; ADHD) 7名、自閉スペクトラム症(autism spectrum disorders; ASD) 5名、ADHD+ASD 25名、未診断例 2名であった。早期アセスメントの結果、DDと相関があるとされる児は17名あり、ガイドライン検査異常との一致率は65%(11/17名)であった。

また、アセスメントの合計点を0点、1～5点(低得点群)、6～10点(中得点群)、11点以上(高得点群)に分類すると、それぞれ6、20、9、4名あり。これらの児のガイドライン検査は、0点群で33%、低得点群で50%、中得点群で67%、高得点群で100%異常判定となり、正の相関を認めた。

**【結論】**7～8月では特殊音節を習得前の児が多く正確な評価、ひいてはDD診断が困難であった。早期アセスメントはDD児童の早期発見に寄与すると考えられるが、DDの診断を確実に行うには診断バッテリーの整備と読字評価の時期の決定が必要である。

## 無意味語と有意味語読みの流暢性とIQ(IQ<91 VS 71~85)



平仮名单音・無意味語読みの流暢性:

知的レベルが高くても流暢性は上がらない

有意味語・単文読みの流暢性:

知的レベルが上がると流暢性は上がる

語彙・理解力が上がる⇒言葉・文全体から判断できる

**単音読み・無意味語：読み速度低下、  
有意味語・単文：読み速度正常範囲 のケース  
DD+ごく軽度のASD傾向と高い知的水準（FSIQ=119）**

**家で：**かんしゃくがはげしく登校を渋るようになり受診。

**教員レポート：**学校でかんしゃくなく、友達と仲良く遊べ、成績良好。読み書きに問題なし。  
自分の思いを出すことは少なく、負けることや思い通り

稲垣式	音読時間:M±SD	Z Score
単音読み	111.1 (37.7±7.7)	9.5
有意味語	45.3 (33.8 ±12.7)	0.9SD
無意味語	89.1 (59.9±14.4)	3.0SD
単文	12.2 (16.5±5.5)	-0.8SD

①学校では良い子  
家では激しいかんしゃく  
ASDは想像もできない

②語彙・知識もは豊富  
教科書は有意味語など  
何度も読んだ言葉  
→読みに問題を感じさせない  
無意味・単音の結果よりDD  
→英語の読み書きは？

**STRAW：小学生の読み書きスクリーニング**

音読(正確性) ひらがな一文字 問題なし  
書字(正確性) ひらがな一文字 15/20

# ディスレクシアの疫学研究：幼児期から成人までの縦断的研究

ディスレクシア生徒の中学生時代の問題～学習成績とメンタルヘルスの関連～ 平谷他

目的：DDは幼児期から成人期まで様々な問題を呈するが、高校入試準備が最大の課題（学業成績が時に最も重要な価値となる）である中学校時代はその問題の多様性と重篤度においてきわめて深刻である。クリニックを受診する多くの子どもたちは小学生のころから学業成績は不良であるが、中学に入るとさらに学業不振は深刻になる。特に英語の成績は最下位に近い成績に留まるのが通例である。ここから派生する二次障害として1つは低学力状態であることに依る自信喪失と意欲減退、いわゆる“LDトラウマ”状態に陥り、学級不適応や不登校症状を呈することもある。もう1つは高校入試と高校進学における著しい不利益とさらなる社会不適応である。

本研究では、①DD診断のある中学生を対象として、ディスレクシア症状と学業成績との関連を検討し ②様々な心理尺度による評価を加え、学業成績と心理的ストレスおよびトラウマ症状の関連についての解明を目指す。

## 平谷こども発達クリニック通院中のディスレクシア中学生の成績 教科別得点（学年ごとの確認テストの学年平均点との差）

教科名	国語			社会			数学			理科			英語		
	DD群	対象群	p値	DD群	対象群	p値	DD群	対象群	p値	DD群	対象群	p値	DD群	対象群	p値
1年生	19.5	4.2	0.01	18.5	2.5	0.02	18.8	5.6	0.11	11.6	1.9	0.15	27.9	10.3	0.01
2年生	21.1	3.6	0.01	18.4	0.9	0.01	18.2	5.4	0.12	9.6	0.9	0.16	26.7	13.2	0.06
3年生	18.3	6.9	0.05	14.3	4.7	0.12	12.8	1.1	0.15	11.8	6.0	0.01	29.5	16.0	0.07

DD児は全員ADHD &/OR ASDを併存していたので、対照群はIQ値を揃えた ADHD &/OR ASD を選択した。

確認テストの結果を教科ごとに平均点との差を用いた。全教科で両群ともに平均点を下回っていた。

	男/女	IQ	ADHD	ADHD+ASD	ASD
DD群	30/3	96.6±12.2	7	23	4
対照群	28/6	102.6±107	11	15	6

DD群の英語の成績が極端に低く、対照群でも他の教科に比べて低いことが特筆される。

# 英語の成績低下について

DD群は極端に低下。対照群(ADHD・ASD)、もかなり低下

## DD群の低下

- ①英語特有の言語体系、特に文字と音(読み)の対応関係の複雑さ  
仮名文字は音と文字の対応が透明(規則性)で文字の粒が粗いのでDDの出現率が低く英語は音と文字の対応が不透明(不規則性)で文字の粒は音素などで細かく、DDの出現率が高い(「粒性と透明性の仮設(Taeko Nakayama Wydella,, 1999) )
- ②DDの持つ音を認識する弱さ が相互に関係しあっている。

## 対照群(ADHD・ASD群)の低下

- ①DDの基本的病態は読字障害であるが、教育場面では字を書くことの困難さが試験での得点を制限する。併存するASDも書字を困難にさせている可能性がある。
- ②今回のDD群33例中27例がASDを併存。ASD自体が書字困難の特性を持っており、DD児の書字困難をさらに悪化させている可能性は否定できない。



## 5教科合計点が学力(知識や理解力)を正しく反映していない可能性がある

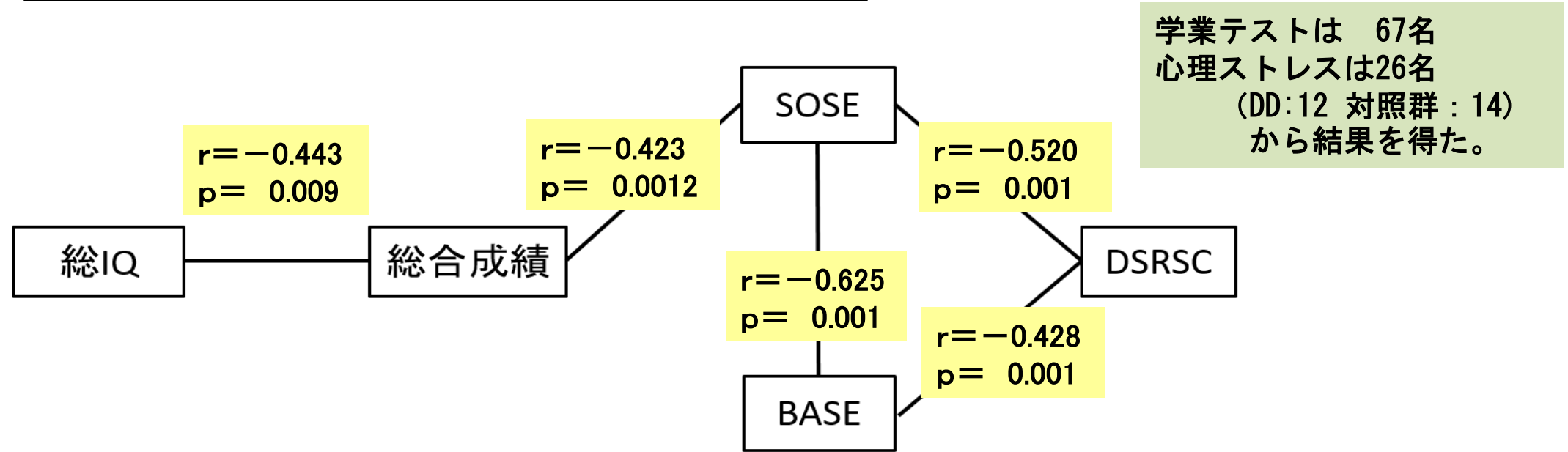
今回の「学業成績」は、以下の4つの因子を含んでいる

- ①評価方法が適切ではないことによる(=見かけ上)の得点の低下
- ②日頃の教え方が本人の特性に合っていないために分からない
- ③努力や合理的な配慮では対応できないDDに避けることのできない学力低下因子
- ④併存するADHDやASDが学力増進を制限する可能性

(報酬系・実行機能の低下も含めて)

⇒現行の試験は生徒の知識や理解力ではなく生徒の読み書きの力を評価している部分が少なからずあると感じる。読み書きの苦手な生徒が、読み書きの能力が強く要求される形式で知識や理解力を評価されれば成績(読み書きの成績)が低いのは当然である。さらに、日ごろその生徒の認知特性に応じた指導がなされないと成果(成績)は上がらない

## 心理ストレスとIQおよび学業成績 (N=67)



- ① そばセット (SOBA-SET: Social and Basic Self Esteem Test) は社会的自尊感情 (SOSE) と基本的自尊感情 (BASE) を測定する尺度 (心理テスト) である。DD群と対照群の間に差はなかった。
- ② 総IQと総合成績との間に有意な相関が見られ、総合成績はSOSE (社会的自尊感情) と有意に関連していたが、総IQは関連していなかった。また総IQと総合成績はともにBASE (基本的自尊感情) とは関連していなかった。SOSEとBASEはともに有意にDSRSC (抑うつ傾向) 関連していた
- ③ IQは学業成績と関連するものの社会的自尊感情とは直接関連しないのに対し、学業成績を介して社会的自尊感情と関連しており、さらにそれが抑うつ傾向に対してネガティブな関連性があることを示している。(ピアソンの積率相関係数を用いて相関分析を行った)。

# 発達障害と不登校①

◆ 鳥取県の全小中学校における発達障害を持つ児童生徒の不登校発現の割合（小林, 2002）

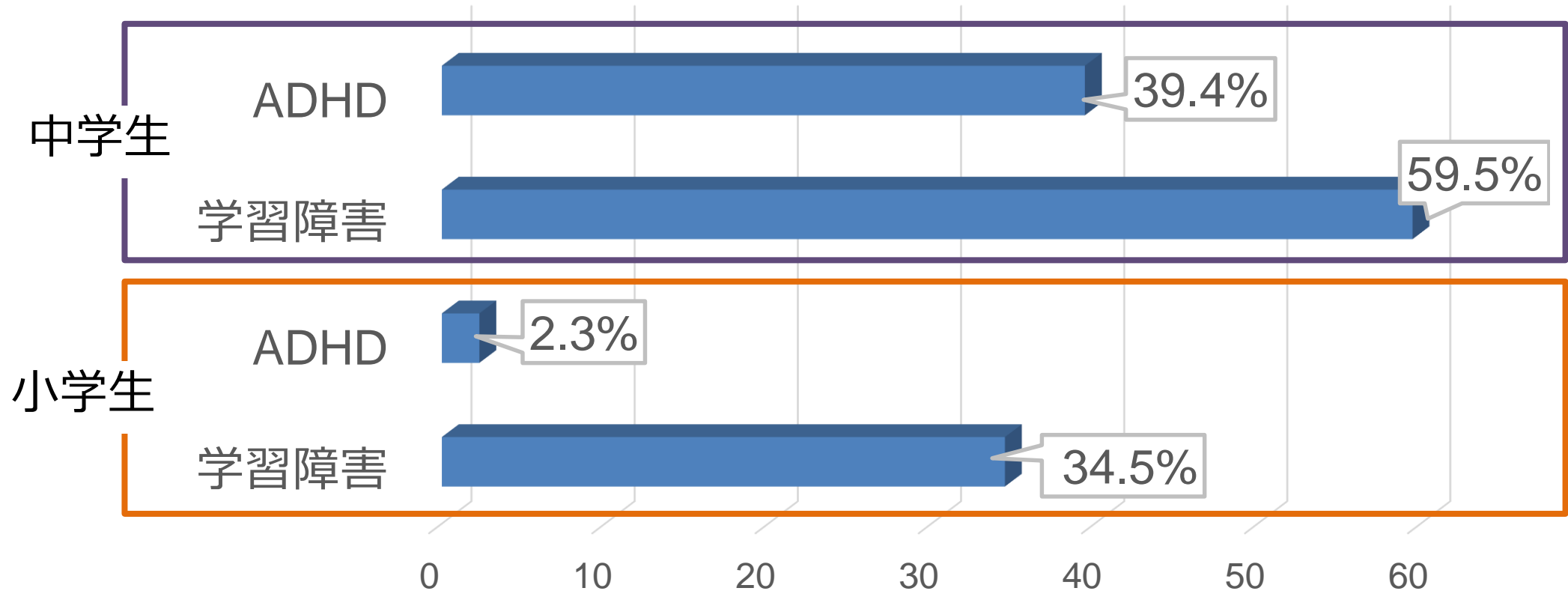


Figure 1. 鳥取県の全小中学校の発達障害の児童生徒の不登校発現率

# A case study of an English-Japanese bilingual with monolingual dyslexia

## 資料①

Taeko Nakayama Wydell<sup>a,\*</sup>, Brian Butterworth<sup>b</sup>

<sup>a</sup>*Department of Human Sciences, Brunel University, Uxbridge, Middlesex UB8 3PH, UK*

<sup>b</sup>*University College London, Gower Street, London WC1E 6BT, UK*

Received 28 April 1998; accepted 19 February 1999      Cognition 70 (1999) 273–305

## Abstract

We report the case of AS, a 16 year-old English/Japanese bilingual boy, whose reading/writing difficulties are confined to English only. AS was born in Japan to a highly literate Australian father and English mother, and goes to a Japanese selective senior high school in Japan. His spoken language at home is English. AS's reading in logographic Japanese Kanji and syllabic Kana is equivalent to that of Japanese undergraduates or graduates. In contrast, his performance in various reading and writing tests in English as well as tasks involving phonological processing was very poor, even when compared to his Japanese contemporaries. Yet he has no problem with letter names or letter sounds, and his phoneme categorisation is well within the normal range of English native speakers. In order to account for our data that show a clear dissociation between AS's ability to read English and Japanese, we put forward the 'hypothesis of granularity and transparency'. It is postulated that any language where orthography-to-phonology mapping is transparent, or even opaque, or any language whose

Taeko Nakayama Wydella (1999) は、英語と日本語のバイリンガルで、日本語にはDDではなく英語にのみDDの16歳の少年を紹介している。父親がオーストラリア人、母親がイギリス人であり、家庭では英語を用い、学校では日本語を使用するという環境で育った。日本語の識字能力は、調査時に大学学部生と同等の漢字の読み能力があったにもかかわらず、英語の識字能力と音韻認識能力は、同年代のネイティブスピーカーだけでなく、同年代の日本人より大きく下回った。このようなケースは日本だけの現象ではなく、日本語同様に表記と音韻の乖離が少ないイタリア語使用圏でも現れる

資料②へ

英語はディスレクシアになりやすい。平仮名ですらすらすら読めないディスレクシアの生徒に読み書きの英語をマスターすることは不可能と言っても過言ではない

# ①学校推薦 ②入学試験の採点考慮(特に英語) ③入学後の授業と成績判定 で合理的な配慮を依頼する診断書3通(現在元気に高校生活を送っています)

## ①中学校長へ学校推薦依頼

診断結果を保護者と通じてお伝えいたしました。本生徒は穏やかな性格で、彼にあった教育環境が与えられれば、将来は就労して社会に貢献できる可能性を十分に持っています。しかし、定期考査や入試等で、従来の筆記試験による方法では、読み書きの苦手さがハードルになり、彼の教科理解の力を正確に評価することはできません。**志望校への推薦をぜひお願いします。**

## ②中学校長へ

**高校入試・入学にあたり特別に配慮していただきたいこと**

①本生徒の将来の自立を支援できる高校教育を保証していただきたい。②ディスレクシアの生徒にとって現在の英語教育である程度の成績を修めることは不可能です。英語の試験結果を高校入試の参考にすることはディスレクシアの生徒にはたいへん酷です。③入試の場面でもセンター試験で認められている配慮をお願いしたい ④高校入学後においても、英語と国語教育については検討していただきたいと思います

## ③志望校校長へ

**高校入試に当たっては、中学校で実施されてきた合理的配慮を踏まえ、以下の配慮をお願いします。**

①入試の場面でも本人に必要な合理的配慮の提供をお願いしたい。  
②幸いにして入学を許可された場合には、ディスレクシアの生徒に実施されている配慮をお願いしたい。特に英語と国語教育についてはできるだけ配慮をお願いしたい。具体的な配慮については、医療機関に所属する医師には荷が重い課題ですので、在籍中学校や保護者さま、教育委員会、特別支援教育センター等の相談機関等と十分相談していただきたいと思います。

## 合理的配慮を転校先の学校長に依頼

福井市内の学校で実施された合理的配慮

### ①ipadの持込

WiFiがないとつながらないため学校ではインターネットはつながらない。休み時間や使用しない時は先生に預けています。

②ipadを利用して黒板を撮影しての板書。  
自分でノートに板書していますが書き忘れが多く、書く量が多く字が汚くなるため希望。

自宅でプリンターに出してまとめます。

③ipadでの漢字の書き順の学習。

④国語・算数の通級。週2～3日1時間。

⑤試験時は大きめの字、ルビ付きのテスト用紙を使用する。

小学校校長先生殿

〇〇さんについて学校での合理的な配慮をお願いいたします。

〇年〇月学業不振を主訴に当クリニック初診

①学習障害(読字障害・書字表出障害・計算障害)

②注意欠陥多動性障害(混合型)

③自閉症スペクトラム障害 疑い

④発達性協調運動障害 診断しました。

学習障害について教育場面での特別な配慮が必要となります。現在通われている学校で行われている合理的な配慮を貴校においても継続していただきますようお願い致します。

以上の配慮をよろしくお願いいたします。

詳しくは診断書・認知行動特徴のまとめをご覧ください  
)

## 診断書：自閉症スペクトラム障害・ADHD・ディスレクシア

○年3月、卒業式の練習で”揚げば尊し”を覚えるために何回か歌詞を書かなくてはならない という宿題が出されたが、本児はそれをやってゆかなかったため、みんなの前で担任に叱られ、翌日より登校できなくなり結局卒業式が終るまで休校された とのことです。自分のせいでクラス全員が叱られたのでみんなに申し訳がないと 感じたことが登校できなかった要因と推測されます。

今回のエピソードは、彼の特性をよく表しています。

### ①書くことが苦手

ディスレクシアの児童は、高学年になると書字困難が前面にでます。他の生徒には簡単でも歌詞を書き写す作業はかなり困難です。

②自閉症スペクトラム障害の生徒は社会コミュニケーション能力が低いので自分と他人の区別がきちんとつけることができません。担任が彼をしかっているとき、定型発達の生徒なら自分が叱られていると分かるのに、彼は”自分のせいでクラスのみんなが叱られた”と受け取ったのだらうと推測します。

今後、本生徒の指導において、上記診断名に基づく特性を意識した**特別支援教育の推進をお願いします。**

## 追記：

①歌詞を覚えるのに彼の一番苦手な書字を利用する方法は本人に余分な負担を与えるだけで有用ではないと思います。(他にもっと有効な方法があると素人ながら思います)

②2015.12.11 付け診断書と最近書いたディスレクシアに関する資料を参考までに同封します。

2010年.3

今年も卒業式の時期は休学

特別な配慮：板書はアイパッドで写真を撮らせてくれるようになった。クラスメートも本児が写真をとるまで、黒板を消さずに待ってくれる。

2019.7.28

平谷こども発達クリニック



平谷美智夫

カルテ・診断書・紹介状などで数え切れないほど字を書きますが  
手で書く文字は上のたった5文字です。



# 第2回 ディスレクシアセミナー IN Fukuiのご案内

## ～ 学校でのICT利用による読み書き支援 ～

(2019.7.28 10:00～17:30 福井県立大) 主催:医療法人 平谷こども発達クリニック

時間	プログラム
10:00～	<p>ディスレクシアの基本的な知識 (DDについてよく分からない人むけの講義                      ディスレクシアとは～DDの概念及びADHD・自閉症スペクトラム障害との深い関連～                      平谷 美智夫 平谷こども発達クリニック 院長</p>
11:00～	<p>ディスレクシアと不登校 DD児童の自尊感情・不登校                      仲嶺美甫子 立正大学心理学科(前平谷こども発達クリニック)</p>
12:00～	お昼休み
12:50～	<p>テーマ講演1:読み書き支援にICTを活用する意味                      河野俊寛 金沢星稜大学人間科学部</p>
14:00～ 15:20～	<p>テーマ講演2:ICTを活用した読み書き支援の実際                      平林ルミ 東京大学先端科学研究センター                      質疑応答 河野俊寛・平林ルミ</p>
15:50～	<p>ディスレクシアの子どもを持つ保護者の願い                      1)保護者アンケートより 2)保護者の声</p>
16:40～	<p>総合討議とまとめ 司会: (平谷・河野・平林・仲嶺)</p>

## 第2回セミナー開催にあたって

2019.7.28 平谷美智夫

毎週のように新たにDDと診断される子どもたちを診ていて、次のように思います。

- ① 字は単に情報を伝達する手段であるのに、『字は人をあらわす』という言葉があるようにわが国では書字を特別視する傾向があります
- ② 日本人は、平仮名・カタカナ・漢字という世界でも稀な3つの文字を使っています。英語が問題です。英語は言葉の粒が小さく、アメリカ人やイギリス人でもDDになりやすい言語です。平仮名ですら“すらすら”読めない日本のDDの子どもが“読み書き”の英語をマスターするのはほとんど不可能です。しかも高校入試や大学入試で英語は数学や国語と同等あるいはそれ以上の配点となっています。DDの子どもには不公平です。
- ④ DD教育にICTは重要なツールですが、日本のICT導入はOECD加盟47カ国で46位です。
- ⑤ 多くの子どもたちが、“読み書き”中心の教育で勉強⇒学校が嫌いになっています
- ⑥ DDの子どもたちは中学を卒業すると見違えるほど明るくなります。

- 読み書きには、文字を音にしたり、音を文字にしたりする**低次の読み書き**と、書かれた文章を読解したり、考えたことを文章化したりする**高次の読み書き**の2種類があります。**大多数の人では、低次の読み書きは自動化**します。ですから、文字の読み書き自体にエネルギーを使うことはほとんどなく、高次の読み書きだけにエネルギーを使うことができます。しかし、読み書き障害があって低次の読み書きがすらすらと正確にできないと、**文字を音にしたり音を文字にしたりすることにエネルギーを使い果たしてしまい**、高次の読み書きが不十分になってしまいます。その結果、**覚える、考える、**といった学習で一番大事な活動が十分できず、学習に遅れが生じる可能性があります。武蔵野大学の舞田敏彦氏は、**小中学生の自殺原因の1位は「学業不振」**であることを指摘しています(日経DUAL 2014年11月6日)。勉強ができないことは死にたくなるほどつらいことなのです。学習支援は急を要する支援なのです。
- 一般的には文字が学習の道具になります。しかし、その**文字という道具がスムーズに正確に使えない場合は**、どのようにして学習すればよいのでしょうか。**簡単です。文字以外の手段を使えばいいだけです。**聴覚障害のある人が補聴器や手話を使って学習したり、視覚障害のある人が点字や代読で学習するのと同じように考えればよいのです。そして、文字の読み書きの代替道具として、タブレットPCやスマートフォンといったICTが使えるのです。もちろん、人に読んでもらったり書いてもらったり、という手段も使えます。しかし、その場合は人をお願いしたり、その人と時間と場所を合わせたりする必要があります。その点ICTは、好きな場所で、好きな時間に使えます。つまり、自立につながるのです。**自立につながる読み書きを補助する道具、それがICTです。**
- 本研修会では、読み書きの補助代替ツールとしてのICTについて、ICTを使う意味、具体的なICT利用例等を学ぶことができます。

(第2回 ディスレクシアセミナー in Fukui 2019.7.28)

(河野俊寛)

# 平谷こども発達クリニックにおける ディスレクシアの取り組みの成果と見えてきた課題

## 成果

- 1: 県内にDDの認識が広まり、読み書きの苦手な児童が紹介されるようになった。
- 2: 合理的な配慮が徐々に広まった
- 3: 併存症への支援もかなりできるようになった
- 4: 早期発見の問題点も少し明らかになった。神経発達症の児童はDDのリスク児であるとの認識がスタッフに共有されるようになり、早期介入が行われるようになった。
- 5: 年長児である程度DDを予測できるようになった。
- 6: クリニック内にさまざまなDD支援プログラムが整備されてきた。

## 課題

- 1: 平仮名以外のカタカナ・漢字・英語が手付かず。特に英語が手付かず。英語の先生・教育委員会も無関心
- 2: 合理的な配慮の普及が今ひと
  - 1) 前例がないから(学校側)
  - 2) 他の生徒と違うことは嫌  
(児童から)個性的であることを認めない教育内の雰囲気？